

紙幣肖像の変遷

千円札	5千円札	1万円札
1950年 聖徳太子	1957年 聖徳太子	1958年 聖徳太子
1963 伊藤博文		
1984 夏目漱石	新渡戸稲造	福沢諭吉
2004 野口英世	樋口一葉	福沢諭吉
2024 北里柴三郎	津田梅子	渋沢栄一

(注) 国立印刷局の紙幣写真(2004年まで)を基に作成



◆2024 年から紙幣の肖像画が変わる。1万円札の渋沢栄一は、現在 NHK の大河ドラマ「青天を衝け」でも描かれている。観てるかな？

◆そして渋沢の著書「論語と算盤」が売れているとか？

道徳と経営は合一すべきである。日本実業界の父、渋沢栄一が、後進の企業家を育成するために、経営哲学を語った談話録。論語の精神に基づいた道義に則った商売をし、儲けた利益は、みな人の幸せのために使う。維新以来、日本に世界と比肩できる近代の実業界を育てあげた渋沢の成功の秘訣は、論語にあった。

テスト明け、またまた突然ですが、渋沢栄一略歴

渋沢栄一は天保11年2月13日(西暦:1840年3月16日)、現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれました。

家業の畑作、藍玉の製造・販売、養蚕を手伝う一方、幼い頃から父に学問の手解きを受け、従兄弟の尾高惇忠から本格的に「論語」などを学びます。

「尊王攘夷」思想の影響を受けた栄一や従兄たちは、高崎城乗っ取りの計画を立てましたが中止し、京都へ向かいます。

郷里を離れた栄一は一橋慶喜に仕えることになり、一橋家の家政の改善などに実力を発揮し、次第に認められていきます。

栄一は27歳の時、15代将軍となった徳川慶喜の実弟・後の水戸藩主、徳川昭武に随行しパリの万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。

明治維新となり欧州から帰国した栄一は、「商法会所」を静岡に設立、その後明治政府に招かれ大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わります。

1873(明治6)年に大蔵省を辞した後、栄一は一民間経済人として活動しました。そのスタートは「第一国立銀行」の総監役(後に頭取)でした。

栄一は第一国立銀行を拠点に、株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、また、「道徳経済合一説」を説き続け、生涯に約500もの企業に関わったといわれています。

栄一は、約600の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力し、多くの人々に惜しまれながら1931(昭和6)年11月11日、91歳の生涯を閉じました。

◆現在の紙幣の裏面は、一万円札が宇治平等院の鳳凰堂の鳳凰像、五千円札が「燕子花図(かきつばたず)」(尾形光琳作)、千円札が富士山と桜が描かれていますが、新しい紙幣の裏面は、一万円札が東京駅、五千円札は花のフジ、千円札は葛飾北斎の富嶽三十六景「神奈川冲浪裏」の図柄になります。葛飾北斎の富嶽三十六景は、パスポートの査証ページにも2020年から使われるようになりました。

◆話は、がらりと変わりますが、渋沢栄一が生きた幕末といえば坂本龍馬、坂本龍馬と言えば司馬遼太郎だろう。そして、いま僕たちが持っている龍馬像は、司馬遼太郎が描いた「竜馬が行く」のイメージと言って過言ではないだろう。

◆その龍馬像を作った司馬遼太郎は、21世紀を生きる僕たちにメッセージを贈ってくれている『自分に厳しく、相手にはやさしく』という自己を。そして、すなおでかっこいい自己を。』と。司馬さんは、それを「たくましさ」と表現している。明日からの進路通信は、このことについて数回連載しようと思います。「進路」とは、この「たくましさ」を身に付けることではないだろうか？